

\\いまこそ知ってほしい！\\

オススメ選定品

常に変化する医薬品のニーズに応え、お客さまの健康に寄与するべく、
賛助メーカーは新製品の開発や既存の製品の改良に日々取り組んでいる。

このコーナーでは、各賛助メーカーにいまだからこそすすみたい選定品を紹介していただく。(総務室・広報委員会)

第31回

日東薬品工業株式会社

若甦内服液G

若甦ノンカフェ内服液G

若甦内服液Gゼロ

若甦ノンカフェ内服液Gゼロ



若甦誕生50年

日東薬品工業(株)は、1947年(昭和22年)の創立以来70年以上にわたり、京都で医薬品をはじめとするユニークなヘルスケア製品を開発・製造・販売してきました。なかでも若甦シリーズは協会の先生方に大きく育てていただき、弊社の主要ブランドとなっています。現在14品目を販売していますが、今回はそのなかから、若甦内服液Gをはじめとする内服液4品目を紹介させていただきます。

若甦は、1971年(昭和46年)、創業者の北尾誠二郎が「若甦錠」を開発・発売したのが始まりで、今年で誕生からちょうど50年になります。開発当時、時代の流れを見て健康維持・増進のため毎日服用できる滋養強壮剤が絶対必要と考え、薬用人参に着目。薬用人参にビタミン類

や、ニンニクの無臭有効成分を加えた若甦錠が生まれました。

薬用人参は、滋養強壮はもちろんのこと、「人参七効」といわれるように、古来より万病に効く生薬としてさまざまな薬効が研究され、利用されてきました。弊社では薬用人参(紅参を含む)を若甦シリーズの中心となる欠かせない成分と考え、すべてに配合しています。

内服液の開発

若甦錠の発売から数年後、1975年(昭和50年)ごろから若甦をシリーズ化する話がもち上がり、内服液を開発することになりました。薬用人参に加え、血行を良くし抗酸化作用のあるビタミンE、エネルギー代謝に必要なビタミンB群と中枢神経に作用し疲労感を軽減するカフェインを配合し、1977年(昭和52

年)6月に発売にこぎ付けました。当時、脂溶性のビタミンEの可溶化と味付けにはたいへん苦労し、50種以上の試作を重ね、「若甦内服液」が誕生したとの話が残っています。

また樹脂キャップを採用し、キャップからビン全体を包むシュリンクラベル包装は、衛生面と開封性を両立させるために独自に開発したもので、その斬新なフォームはそれまでのドリンク剤のイメージを一新するものでした。

ニーズに応じて

若甦内服液を発売後、幅広いニーズに応えられるよう処方や剤型を検討しさまざまな製品を開発してきましたが、特に女性のお客さまから、ドリンク剤は飲みたいけれどカフェインが苦手、あるいは寝る前に飲みたいという要望が増えてきま

した。現在、ノンカフェインのドリンク剤は数多く見られますが当時はまだ少なく、弊社代表取締役社長である北尾哲郎のアイデアで、主力製品の若甦内服液からカフェインを抜いた製品を開発することとなり、1996年（平成8年）5月に「若甦ノンカフェ内服液」を発売しました。当初、「若甦内服液のお客さまが分散してしまうのでは」との心配もありましたが、新たに飲んでいただけるお客さまが増え、結果的には相乗効果となりました。寝る前や、かぜのときにもおすすめしやすくなっています。

リニューアル

発売から20年以上経ち、医薬品に関する規制緩和の一環で若甦内服液、若甦ノンカフェ内服液が医薬部外品に移行することとなりました。医薬品としての若甦内服液、若甦ノンカフェ内服液がほしいとの要望を多くいただき、動物性生薬の牛黄を新たに配合、ビタミンB6を増量してリニューアルし、2000年（平成12年）に医薬品の「若甦内服液G」「若甦ノンカフェ内服液G」が誕生しました。処方強化しましたが「価格はそのままデザインや味は変えないでほしい」とのご要望に応え、極力変化がないように工夫しました。

時代とともに

若甦が生まれた1970年代は高度経済成長期でした。それから約40年後、日本人の生活スタイルや食生活は大きく変わりました。高齢化が進み、糖尿病や肥満の増加とともにカロリーや血糖値を気にする方が増え、健康志向も高まってきました。そこでカロリーを抑え、糖類ゼロの製品を開発することとなりました。若甦内服液の時代から使用している白糖やハチミツ等に代わる甘味

料を選定し、それらを組み合わせて「若甦の味」をできる限り再現、2014年（平成26年）6月に「若甦内服液Gゼロ」、2017年（平成29年）6月にはカフェインも抜いた「若甦ノンカフェ内服液Gゼロ」を発売しました。

どちらも糖類ゼロで、1本30mLあたりのカロリーは約1.6kcalです。なので、カロリーや血糖値が気になる方にもおすすめしやすくなっています。

なお、この「ゼロ」シリーズからパラベンを不使用とし、併せて若甦内服液Gと若甦ノンカフェ内服液Gもパラベンフリーに変更しています。さらに若甦ノンカフェ内服液Gについては、以前から「甘ったるい」などのご意見をいただいていたので、甘味料を減らし若甦内服液Gの味に近づけるマイナーチェンジを行っています。直近では、シュリンクラベルをはがしやすくするため、ラベルの樹脂を変更し、順次切り替え中です。

このように若甦内服液は、時代とともにお客さまのニーズに応えるべく、処方の見直しやラインナップの強化を図り、変化してきました。一方で価格は、若甦内服液発売時から44年間変更しておらず、デザインや味も当初からのイメージを守っています。

今後は、環境に配慮した資材の採用も検討したいと考えており、お客さまの声に耳を傾け、変えるところ



充填



製造ライン

ろ、変えないところを見極めながら、時代とともに進化していきたいと考えています。

これから

コロナ禍で人々の生活は一変しました。行動が制限され、生活環境や働き方も変わり、病院に行くことがためられるというような、2年前には想像もしなかった日常があります。いま、自分の健康は自分で守る時代です。日常生活に気を付け、自分の体調と向き合い、自己責任で健康を保つ。そのような状況下で、相談できる協励薬局は身近でとても頼りになる存在です。そしてこんなときこそ、若甦がお役に立てるのではないかと思います。

若甦シリーズは、今回ご紹介した内服液以外にもさまざまな処方・剤型を取りそろえており、今後もお客さまの健康の維持・増進に役立つ製品をお届けしていきますので、よろしく願いいたします。



左「のんちゃん」、右「じゃっくん」